

関東の覇者北条家最前線の城

studio クルワ

日本の城を楽しむ

YouTube かいのすけ歴史



「逆井城」

さかさいじょう 茨城県坂東市逆井1261

そこは戦国時代！復元「逆井城」高さ11mの矢倉の上は恐怖？有名ロケ地北条家のお城を紹介



## 城跡の様子は？



公園として整備されているので見学はとてもしやすいです。起伏はほぼ無くスニーカーでOK。一曲輪周辺には空堀を渡る程度の坂道があります。再建建物のすぐそばに説明看板が設置されています。櫓、御殿（主殿）内部は無料で見学することができますが、時間帯によっては閉まっていることがあります。トイレは公園内、一曲輪手前にあります。

駐車場は公園のすぐ近く。無料で利用することができます。



各所にある説明看板→

## 見学のポイント

- 1 戦国時代をイメージし再建された櫓は必見
- 2 井楼矢倉の上に登って兵士気分を味わう
- 3 時間があれば一曲輪の土塁と堀を見る

## 本格的な「お城の再建」

現代によみがえった戦国の城、茨城県にある逆井城です。外からその姿を眺めるだけでなく中の様子も見ることができ、高さ十一mを超える井楼矢倉にも登ることができ、当時の兵士たちの気分を味わうことができます。逆井城は、平成になって始まった「中世城郭復元の先駆け」として有名。当時「お城の再建」というと鉄筋コンクリート製が定番。それを戦国時代風に、しかも木造での再建に踏み切るとは、ずいぶん思い切ったことをしたものです。そのおかげであちこちに同じような城が再建されるようになり、私のような城好きがより楽しめるようになったのです。当時の発案者にお礼を言いたいくらいです。

## 城の一番奥へ

広く田んぼになっているのが昔の沼。当時はずっと水で満たされていました。こちらに面した側にあったのが城の中心「一曲輪」。城主の館などがあったのでしよう。端の方に土塁の高まりが残っており、小さな門が再建されています。



左 二層櫓の二階部分。怪しい雲が出てきて戦国の雰囲気が増した写真が撮れました。

上 井楼矢倉 下から見上げると震える高さです。

す。曲輪を囲む堀の跡を歩くと曲がっているのがわかります。側面攻撃のための工夫ですね。他に「二重土塁」（内側が外側より高くなっている土塁）の跡がありますので、是非見てください。

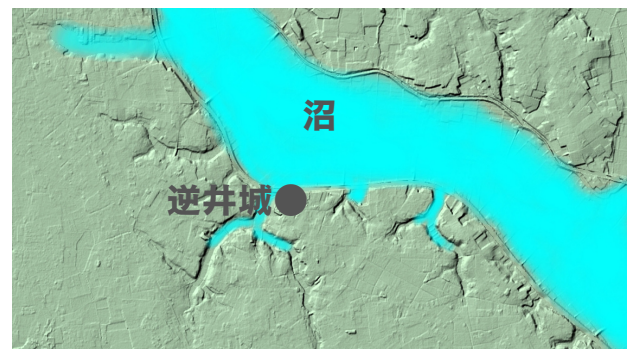
## 北条氏繁による大改修

本丸の手前には馬出かな？と思われる防御施設の跡があります。現地案内看板によると、すぐその柵があるあたりに向かって橋がつかっており、一度この空間に入ってから奥の曲輪に進んでいったのでしょうか。四角い形をしているのがポイントです。

ここにはもともと地元の家族による小さな城があったのですが、関東の覇者北条氏の城となつてから大規模改修が行われました（逆井城から飯沼城と改名）。このとき城将北条氏繁は、藤沢から木材加工のプロである大鋸挽（おがひき）の職人を呼んだと伝わっています。北条氏の領土の端に位置する逆井城ですが、戦への備えか、それとも力を示すためか、かなり力を入れて改修されたようです。

## 逆井城は水に囲まれた城だった？

逆井城はそれほど高くない台地の端にありました。北側の広くへこんでいるところは昔大きな沼があった場所。西側には人工的に水を引き入れた入江のようなものがあり、城の防御だけでなく物資の運搬にも使われていたと考えられています。戦国時代の逆井城は周りを水に囲まれた要害の地にあつたのですね。



## いちばんの見どころ再建櫓

一曲輪の外側、西二曲輪です。ここに逆井城一番の見どころ、復元建築物が並んでいます。実は駐車場からすぐのところであり、見学は楽です。右から「二層櫓」、「平櫓」、そして左の一番高いものが「井楼矢倉」。これらの建物は、戦国時代をイメージして復元（想定復元）されたもの。発掘調査の結果に基づき建物の平面の大きさについてはかなり正確とのこと。ただその上の建物の部分は想像の割合が多いかと。このころの建物の姿かたちを伝える図面や古写真は残っておらず百パーセント正確に復元するのは無理です。ただ、逆井城では同時代の資料を基に慎重に復元されているとのこと。「戦国時代の城ってこんな感じだったのだろうか・・・」と十分感じさせてくれるものであることは確かです。





現地にある案内看板。入口は左下にある橋です。上が北。田んぼが描かれているあたりは沼でした。中央の池の下が馬出と思われる場所。四角い堀の跡が確認できます。

## 二層櫓の内部は？

城に入る橋。わざと斜めに架かっているのは城内から攻撃しやすくするためです（筋違橋）。周りの塀に設けられた狭間から弓鉄砲で攻撃されることを想像すると足が止まります。（橋を下から支える柱の石は当時のものが使われているらしいです。）

左側に建つのが二層櫓。逆井城でいちばん大きな建物です。お寺のような建物（大入母屋おおいりもや）の上に物見を載せた姿。壁の下の部分は板張り。雨が降っても直接壁に水が当たらないようになっていきます。これらの板も、氏繁が招いた職人たちがつくったのでしょう。表は窓が多く、一階の下には鉄砲用の四角い狭間が顔を覗かせています。敵を攻撃するためですね。裏は窓が少ないです。

櫓の中に入ることができます。一階部分は広い空間。普段から戦いに備えて武器などが置いてあったのでしょう。戦いのはなかなかのクラスの武将がここで指揮をとったのかもしれませんが。



左が井楼矢倉。右は二層櫓。二層櫓の隣にある建物は平櫓で、物資の搬入などのため外側にも出入口があります。

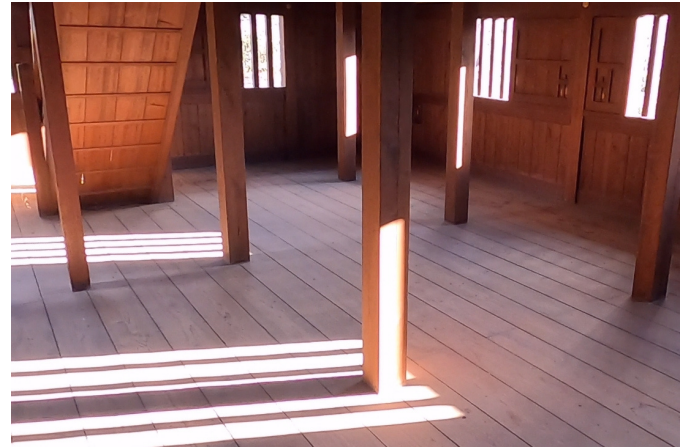
二階にも上ることができません。階段はかなり緩いですね。このあたりは見学のしやすさを優先したのでしょうか。最上階は外に出られるようになっていたのですが、私が行ったときは風のせいとか、それとも時間のせいとか、扉が開かなくなっていました。ここからの景色は見たかったのですが、残念です。見学は早い時間をお勧めします。

## 恐怖！井楼矢倉

ハシゴのような形をした井楼矢倉。戦国時代に多く使われたタイプです。役割は高い場所から戦いの状況を掴む物見などです。そのため高さは11mを越えます。上から弓を射ればその威力は倍増したことでしょう。

この矢倉にも登ることができません。ぐるぐる回る階段。頭上に高さがないところがあるので注意してください。当時はこのように簡単には登れず、ハシゴなどを使ったのかもしれませんが。

正直怖いんです。矢倉自体の安定感なさそうな形が不安です。突風が吹いたらまるごと



左 井楼矢倉の上からの様子。高さ11mの場所からは周囲がよく見えます。真下の水堀の中までよく確認できる。これなら見張りをなまけない限り、敵の侵入に気づかないことはありません。ただ、上に乗ったまま移動されるのは勘弁です。右 二層檜内部。外側には攻撃用に窓が多く開けられています。下側に鉄砲用の狭間モアリ。よく再現されていますが、それでも階段がユルイのは、やはり現代の建物だからでしょうか。

倒れるのではないかと心配です（実際は井形に組んだ木材を柱にはめ込んでいて丈夫なつくりだそうです）。現代の建物なのでちゃんと金属の筋交が入っているのですが、当時は登るだけでもっとグラグラ揺れたのではないのでしょうか。矢倉の一番上は高いだけあって眺めは最高。すぐ下にある堀の中までよく見えます。ただ、落下したら命はなさそうです。周りを囲む板は盾をイメージしているのだと思います。スベースは狭く、何人もの兵士が弓を放つことはできなかったでしょう。先ほどの二層檜と比べると不安が大きいです。私が兵士なら井楼矢倉への配属は希望しません。建物の中に身を隠しながら窓から攻撃できることのありがたさがよくわかります。驚くのはこの井楼矢倉が「移動式」だったかもしれないということ。車輪などをつけて必要な場所まで動かして使うようです（攻城兵器として使われることは多かった）。ただ上に乗ったまま移動されたら、兵士たちは相当怖かったと思います。



左 移築された関宿城の門。朱塗りがカッコいいです。

右 堀内大台城の復元御殿。常陸の覇者佐竹氏が豊臣大名として上方の城造り要素を取り入れた、関東で最高クラスのお城。佐竹氏が秋田に転封になるまでのわずかな期間しか使われず、絶対的年代を確認することができる超貴重な城跡でしたが、現在は山ごと削られ消失。御殿は発掘調査結果を基に再建され、内部も見学できるようになっています。

## まだある！撮影スポット

井楼矢倉の裏手に御殿が見えます。これは別の城にあった建物です。手前は関宿城で使われていた門。貴重ですね。奥の建物は堀内大台城の発掘調査結果をもとに再建された主殿です。大台城は常陸を統一した佐竹氏が築いた城で、関東の城に豊臣系の城の要素が組み合わさる興味深い時期のもので。わずかな期間しか使われず、その時代の様子がとても良くわかる城の跡だったですが、残念ながら山ごと消失してしまいました。まったく別の逆井城に再建されていることについて少し複雑な気持ちになります。その姿を見ることができるとありがたいことです。

逆井城でのおすすめは撮影。車を停めてすぐのところ、大河ドラマのような建物が並んでいる場所はなかなかありません。私のほかにも熱心に撮影されている方もいましたので、好きな方なら一日中楽しめると思います。



## おすすめ見学ルート

駐車場から西側に回って井楼矢倉を外側から撮影。その後、二層櫓の側にある橋から入城。内部などを見学します。御殿や関宿城の門はすぐ近くにあるので、建物中心の見学なら30分ほどで終わります。

奥の1曲輪跡までは徒歩5分程度。曲輪を囲む土塁と空堀が残っています。再建された櫓門をくぐった先にも曲輪が広がっており、屈折した空堀が見えます。北側に目を向けると低地が広がっており、逆井城周辺の地形を知ることができます。1曲輪櫓門下の空堀を歩くことができます。城の中に迷い込んだ兵士の気分を味わうのも楽しいです。